

2018 US-Japan Medical Device Innovation Forum in Shizuoka

2018 日米医療機器イノベーションフォーラム静岡 【開催概要】

■目的：

本フォーラムは、スタンフォード大学や日米の企業、医療関係者、投資家等の専門家による講演やパネルディスカッションを通じて、日本の医療機器ビジネスの課題や今後の開発ニーズを明らかにするとともに、医療機器開発のフロントランナーである米国シリコンバレーとのタイアップによる解決法を、具体的な成功事例を挙げながら議論するもの。フォーラムをきっかけとして、日米間の連携を加速化し、既にある我が国の潜在力を活かしつつ、足りないものを新たに取り込む“グローバルエコシステム”の形成を通じて、我が国における医療機器イノベーションの活性化を目指す。

■日時：平成30年11月7日（水）

9：00～18：00（懇親会 18:00～）

■場所：グランシップ 会議ホール“風”（静岡市駿河区東静岡 2-3-1） （日英同時通訳）

■主催：

US-Japan Medtech Frontiers

2018 日米医療機器イノベーションフォーラム静岡 実行委員会

（静岡県、(公財)静岡県産業振興財団、(一財)ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター、はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点※）

※浜松商工会議所、(公財)浜松地域イノベーション推進機構、国立大学法人 静岡大学、国立大学法人 浜松医科大学、光産業創成大学院大学、浜松市、静岡県の7機関で構成

■後援：

経済産業省、厚生労働省、文部科学省、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ静岡、ジェトロ浜松）、(一社)日本医療機器産業連合会、(一社)ジャパンバイオデザイン協会、静岡県公立大学法人 静岡県立大学、独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校、学校法人静岡理工科大学

■プログラム：

9:00 主催者挨拶	14:10 パネルディスカッション ④ 「中小企業によるイノベーション創出」
9:15 講演「シリコンバレーの成功理由、そして医療機器・ヘルスケアの未来」	15:15 パネルディスカッション ⑤ 「日米連携によるグローバルエコシステム形成」
9:50 パネルディスカッション ① 「次世代のコネクテッド・デバイスによるヘルスケアの変革」	16:20 パネルディスカッション ⑥ 「日米のコラボレーションによる成功事例」
10:55 パネルディスカッション ② 「日本におけるヘルスケアシステムの課題」	17:10 閉会の挨拶
12:00 パネルディスカッション ③ 「超高齢社会における開発ニーズ」	18:00 懇親会(地域企業展示会を同時開催)
12:50 昼食	20:00 終了
13:30 ランチョンセミナー (地域における医工連携等の取組み紹介)	

■参加者：約500名

米国側：スタンフォード大学、シリコンバレー企業、インキュベーター／アクセラレータ、海外進出コンサル、VC、投資家など

日本側：医療機器・ヘルスケア関連企業、異業種、大学・研究者、医療関係者、支援機関、学生など

<過去の開催状況>

H26	開催日/場所：平成26年10月3日(金) / 東北大学百周年記念会館 主催：東北大学メディカルサイエンス実用化推進委員会 開催規模：400名
H27	開催日/場所：平成27年11月2日(月) / 大阪市中心公会堂 主催：日米医療機器イノベーションフォーラム実行委員会(大阪大学医療系研究科、大阪大学未来医療交流会、(公財)大阪市都市型産業振興センター、大阪商工会議所、US-Japan Medtech Frontiers) 開催規模：250名
H28	開催日/場所：平成28年10月19日(水) / 広島国際会議場 主催：US-Japan Medtech Frontiers、日米医療機器イノベーションフォーラム実行委員会(広島県、(公財)ひろしま産業振興機構、(一社)中国経済連合会、広島大学) 開催規模：450名
H29	開催日/場所：平成29年11月8日(水) / 沖縄科学技術大学院大学(OIST) 主催：US-Japan Medtech Frontiers、日米亜医療機器イノベーションフォーラム実行委員会(内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、琉球大学、万国医療津梁協議会) 開催規模：250名

2018 日米医療機器イノベーションフォーラム静岡(プログラム)

8:10 開場・受付開始

11 階会場前にて、8:50までに受付をお済ませください。

(お名刺を1枚頂戴いたします。)

9:00 主催者挨拶

- ・ 川勝平太 (静岡県知事)
- ・ Jack Moorman (US-Japan Medtech Frontiers 会長)

9:15 講演:「シリコンバレーの成功理由、そして医療機器・ヘルスケアの未来」

- ・ 講演者 : John B. Simpson MD, PhD
(紹介) 池野文昭 (Program Director (U.S.) Japan Biodesign Stanford Biodesign
スタンフォード大学循環器科主任研究員)

心臓血管外科医であり、ワイヤーオーバーPTCA (経皮的経管的冠動脈形成術) バルーンカテーテルの開発者としても知られる Dr. シンプソンは、インターベンションの分野において真のパイオニアであり、同氏が創り出した低侵襲の革新的な医療機器は、世界中の無数の患者の命を救ったとされています。同氏は、医療機器業界において、明らかに最も成功したシリアルアントレプレナーの1人であり、75歳になった現在でも新たなスタートアップを立ち上げるなど、最先端の医療技術を最前線でリードし続けています。また、次世代のアントレプレナーによる有望な新技術の開発を支援するため多額の資金提供を行なうなど、革新的な医療機器の創出を加速化するためにリーダーシップを発揮しています。シリコンバレーがなぜ世界最高の医療機器産業クラスターとなったのか、その発展の立役者の1人である同氏が、その理由、そして医療機器の未来をテーマに講演を行います。

9:50 パネルディスカッション①:「次世代のコネクテッド・デバイスによるヘルスケアの変革」

- ・ 座長 : Jeff Trost (Managing Director, Greenbox Venture Partners)
- ・ パネリスト : Walter Maclay (President & Founder, Volar Systems)
Jim McDonnell (CEO, Kenzen)
Sam Yang (CEO, Xandar-Kardian)

新たなコネクテッド・テクノロジーの進展により、医療施設の外でも、患者情報の管理や介入の推奨、病院と同品質のケアを遠隔から提供することが可能です。また、IoTによる接続性や分析機能により、より高品質な医療サービスを低コストで提供することができます。すべてのステークホルダーは、早期の疾患の検出、慢性疾患や急性期のケア管理の改善を通じて、再入院や高額な介入の軽減といった恩恵を受けることができます。このパネルでは、ヘルスケアの変革に繋がる新たなセンサー技術を紹介するとともに、これらの新技術が医師、患者にどのように受け入れられたかといった課題について検討します。

(10:40 休憩)

10:55 パネルディスカッション②:「日本におけるヘルスケアシステムの課題」

- ・ 座長 : 内田毅彦 (株式会社日本医療機器開発機構 代表取締役)
 - ・ パネリスト : 青山竜文 (株式会社日本政策投資銀行ヘルスケア室長兼産業調査部課長)
増本陽秀 (飯塚病院 院長 兼 イノベーション推進本部長)
-

宮野悟（東京大学医科学研究所教授／ヒトゲノム解析センター長）

山本功二（社会福祉法人 聖隷福祉事業団 執行役員）

高齢化の進展や医療の高度化に伴う医療費の増加、生産年齢人口の減少など、社会や医療を取巻く環境の大きな変化を踏まえ、安定的で持続可能なヘルスケアシステムの実現が求められています。今年2018年は、診療報酬と介護報酬が同時改定された非常に重要な年です。このパネルでは、これらの課題を明らかにするとともに、政府の施策、産業界における最善の対応方法について議論します。

（11：45 休憩）

12：00 パネルディスカッション③：「超高齢社会における開発ニーズ」

- ・ 座 長：阿久津靖子（株式会社 MT ヘルスケアデザイン研究所代表取締役）
- ・ パネリスト：田村圭（厚生労働省医政局経済課医療機器政策室 室長補佐）
飯島勝矢（東京大学 高齢社会総合研究機構 教授）
榎崎浩一（SOMPO ホールディングス株式会社グループCDO 常務執行役員）

我が国は65歳以上人口率が世界で最も高い国であり、米国は2番目に高くなっています。65歳以上の高齢者には、慢性疾患や老化に伴うその他の障害が高い割合で起こりえます。両国ともに、医療システムが十分に整備されており、医療やヘルスケアの機器やサービスの市場が十分に発達しています。このパネルでは、超高齢社会の進展に伴い高まるニーズの見通しとその解決策に焦点を当てます。

12：50 昼食（軽食配布）

※ 懇親会に参加される方は、昼休憩中に11階受付にて5,000円をお支払いください。

13：30 ランチョンセミナー

◇ 地域による医工連携の取組等の紹介

- ・ 国立大学法人 浜松医科大学 理事（教育・産学連携担当）・副学長
（はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点 研究統括） 山本清二
- ・ 一般財団法人 ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター長 植田勝智

◇ 協賛企業による企業プレゼン

- ・ テルモ株式会社 執行役員 CTO 粕川博明
 - ・ 浜松信用金庫 法人営業部 地方創生戦略推進センター 調査役代理 寺田賢人
-

（14：10 再集合）

14：10 パネルディスカッション④：「中小企業によるイノベーション創出」

- ・ 座 長：山本光世（JOHNAN 株式会社 代表取締役社長兼 CEO）
- ・ パネリスト：澤根巨樹（沢根スプリング株式会社 取締役）
筒井康弘（株式会社東海メディカルプロダクツ代表取締役社長）
富原早夏（経済産業省医療・福祉機器産業室長）

このパネルでは、医療機器・ヘルスケア等分野において、日本の中小企業が海外市場を獲得する上での課題や障壁を明らかにするとともに、中小企業による世界展開、特に世界市場の約4割を占める世界最大の米国市場への参入について成功事例を交えて議論します。

(15:00 休憩)

15:15 パネルディスカッション⑤:「日米の連携によるグローバルエコシステムの形成」

- ・ 座 長 : 八木雅和 (大阪大学大学院医学系研究科バイオデザイン学共同研究講座 特任准教授)
- ・ パネリスト : Daniel Burnett, MD, MBA (President & CEO, Theranova, LLC)
Aaron Berez, MD (CEO, Alembic, LLC)
Byung Ju “BJ” (Founder/CEO, Incumedx)
李 宗鎔 (ジョン・リー) John Tsung-Chun Lee (国立台湾大学附属病院)
中川敦寛 (東北大学病院臨床研究推進センター特任准教授)

過去5年間に、日本では、インキュベーター/アクセラレータ、ピッチコンテスト、医療技術開発プロジェクト、新しい医療機器企業の創設など、著しい成長がありました。日本のエコシステムは依然として未成熟の状態ですが、米国や他の国とのコラボレーションがこの成長を可能にしました。このパネルでは、驚異的な成長の理由と成長を維持し向上させる方法について議論します。

(16:05 休憩)

16:20 パネルディスカッション⑥:「日米のコラボレーションによる成功事例」

- ・ 座 長 : Kirk Zeller, DBA (Board Member, US-Japan Medtech Frontiers)
- ・ パネリスト : Joseph Heanue, PhD (President&CEO, Triple Ring Technologies)
東條紀子 (大塚メディカルデバイス株式会社 代表取締役社長)
Brad Vale, PhD, DVM
(Founding General Partner, Strategic Healthcare Investment Partners)
Vivek Balasubramanyam (Spirosure)

近年、日米の企業間におけるコラボレティブな取引が積極的に行われており、多くの企業が利益を享受しています。このパネルでは、M&A や協業など幅広いタイプのコラボレーションを示すだけでなく、具体的な成功事例や得られ教訓についても議論します。

17:10 閉会の挨拶

- ・ 池野文昭 (Program Director (U.S.) Japan Biodesign Stanford Biodesign
スタンフォード大学循環器科主任研究員)

17:30~

懇親会会場 (10階1001会議室) へ移動 (参加費5,000円)

※ 登壇者・関係者は11階ステージにて集合写真撮影を実施

18:00 懇親会 (同会場にて、地域企業製品・パネル展示会 17時50分から開催)

開会の挨拶 18:00~ 難波 喬司 (静岡県副知事)

中締め挨拶 19:30~ Elton Satusky

(Vice Chairman, WSGR Life Sciences Group, USJMF Board Member)

20:00 終了

■ その他イベント（前夜祭企画）

： 学生とシリコンバレー起業家との意見交換会

<日時> 平成30年11月6日(火)17時～19時

<場所> グランシップ10階 会議室（静岡市駿河区東静岡2-3-1）